

## 令和5年度第2回青梅市図書館運営協議会会議録

日 時

令和5年10月12日（木）午後6時から午後8時

会 場

青梅市中央図書館多目的室

出席者

（委員）

沖川委員、平岡委員、鎌田委員、園田委員、伊藤委員、築地委員、  
柿本委員

（事務局）

遠藤課長、石田主査、  
島田館長（指定管理者）、図書館スタッフ1人（指定管理者）

（欠席者）

榎戸委員

### ○ 委嘱状の交付

教育長から委嘱状の交付

#### 1 あいさつ

教育長、会長

#### 2 自己紹介

出席者全員

#### 3 報告事項

##### (1) 指定管理者による図書館の管理運営について

（指定管理者）[資料にもとづき説明]

（会 長）企画展示の中の「戦争の記憶～青梅の図書館のはじまり～」  
は戦時疎開の蔵書関係の展示ですか。

（指定管理者）はい、そうです。

（委 員）今年は関東大震災から100年で、それを扱った企画展示が行  
われたのは良いと思いました。東日本大震災が起こってからは  
関東大震災の都市部的な大きな被害や火災などは、こういう機  
会でないと知りえないので、是非継続して続けて欲しいです。  
また、企画展示に、夏季はスポーツを取り上げると、盛り上が

りに繋がるのではないかと思われました。

中央図書館におけるトイレへのいたずらで、トイレトペーパーを大量に詰め込まれたことによる故障は、毎回、報告がありますが、何かしらの対応をしていますか。

図書館の実績で、コロナが5類になって図書館の方の利用が増加ではなく、マイナスが多かったという理由はわかりますか。

(指定管理者) 企画展示についての御意見は、今後の参考といたします。

中央図書館トイレの故障については、半年の間に2回目の発生です。現在、1時間に1回程度のペースでスタッフが館内巡回をし、長時間に渡った使用をされている方にお声かけをしています。いたずら目的でトイレに入っているのかの判断は難しく、対応に苦慮しています。

貸出実績については、1日平均を考察すると、あと数人、数冊の利用があればプラスに転じます。読書週間に合わせ、スタンプラリー・キャンペーンを実施し、更に利用を促進するよう企画しています。

(会長) 図書館が行う出張おはなし会、学校司書が行う読み聞かせ、学校PTA等による読み聞かせが同時平行で学校で実施し、様々な形で読み聞かせが充実することはとても良いことだと思います。出張おはなし会は分館スタッフが行っているのか。また、図書館の出張おはなし会と学校司書の読み聞かせの違いはありますか。学校PTA等の読み聞かせも含め、それぞれの役割分担があれば、教えてください。

(指定管理者) 出張おはなし会は、中央図書館スタッフが実施しています。学校報告資料に掲載しているおはなし会は、学校に派遣している学校司書が実施しています。

図書館の出張おはなし会は、学校から依頼された対象学年に沿った本を選び、訪問し、読むという形です。学校司書の場合は、勤務時間の制限もあり、短い時間の読み聞かせになると思います。

## (2) 学校司書報告

(指定管理者) [資料にもとづき説明]

(会長) 学校図書館への日本教育公務員弘済会東京支部からの寄贈本

の話がありましたが、初めてなのか定期的なものなのかわかり  
ますか。

(委員) 数年前から始まり、毎年、学校が応募し、抽選で当選した学  
校が、寄贈本をいただけます。おおむね10万円位の予算で、  
30冊位受入ができます。市の予算も増えていますが、寄贈分  
がプラスとなるため、学校では更に図書が充実します。

(委員) 学校で行った「ブックトーク」について教えてください。

(指定管理者) テーマに沿った本を紹介します。たとえば、「ともだち」と  
いうテーマであった場合、学校司書が紹介する本を選び、子  
どもたちに紹介して、「ともだちに関するこの本を読みたい」  
という意欲に繋げていきます。複数の本を紹介するため、準備  
に時間をかけています。

(委員) 写真を見ると、学校図書館の環境がとても良くなっています。  
また、ブックトークで子どもの興味を引く取組も良いと思いま  
す。学校司書派遣の日数を増やせば学校図書館が更に充実する  
と思います。

(事務局) 学校司書の充実については、令和4年度に小・中学校への学  
校司書派遣を増加しています。予算および人員確保の面から、  
すぐに増加することは難しいですが、今後も検討していきます。

### **(3) 第7回青梅市図書館を使った調べる学習コンクールについて**

(指定管理者) [資料にもとづき説明]

(会長) 今回の合計の応募作品数が933件で過去最高とのことですが、  
これはコロナ前も含めて過去最高ということですか。

(指定管理者) 過去最高の応募数でした。昨年についても、コロナ前の  
応募数を超えていました。

(委員) 図書館に相談窓口があることが周知されてきたことによって  
組む学校が増えてきている。それが応募数増加に繋がっていると  
思います。

## **3 協議事項**

### **(1) 第五次青梅市子ども読書活動推進計画（原案）について**

(事務局) [資料にもとづき説明]

(会長) 電子書籍の導入の検討についてですが、現状の報告から、子  
どもたちの電子書籍利用が徐々に身近になってきているという  
印象を抱きましたが、どういう機会に何を読んでいるのか。

(委員) 年齢層が上がるとスマホを見る機会が増え、その中で何かあったときに目にする程度で、電子書籍を積極的活用するイメージはあまりない。

(委員) 電子書籍ですと漫画しか思い浮かばない。電子で文庫を読むイメージは、まだないように思います。

(委員) これからの時代の事を考えると電子書籍の活用というのは避けられない。子どものうちから正しい使い方を身に付けていくことで、色々なものが見え、未来に繋がっていくと思います。電子書籍の導入を計画に入れるのは良い方向だと思います。

(会長) 電子書籍を導入することで、子どもだけでなく図書館に来られない高齢者やハンディキャップを負った方も家で電子書籍を読めるので、有効利用の可能性が広がり、図書館の次の時代に向けたサービスとして考えられると思いました。実際、この計画期間中に、青梅市に導入される可能性はありますか。

(事務局) タイミングとしては、青梅駅前の新図書館開設や図書館システム更新時が良いと考えています。

電子書籍のメリットは、来館困難者が自宅で貸借ができることや多様性として障がいがある方も音声読み上げ機能によって本にアクセスできる点です。デメリットとしては、電子書籍の貸出が回数制限等により、紙の本のようにずっと利用できないことから、費用面での負担が大きい。紙と電子をどう併用して市民に提供していくかが問題ですが、電子書籍の導入を検討していきたいと考えています。電子書籍を導入している自治体に聞くと、最初は利用が伸びるが、その後、伸び悩んでするという話もあり、5年経過後に利用の検証してみる等の事例もあるようです。

(会長) 単に図書館への導入ということだけでなく、導入をきっかけに、学校教育の場での朝読とかのICT教育との連携も盛り込まれていて、とてもいい取り組みだと思います。

(事務局) 他自治体では、図書館の電子書籍を学校で活用している事例があります。学校のICT機器に図書館の電子書籍にアクセスできるアイコンを置いて活用している事例です。しかし、電子書籍には、同時利用数の制限がある場合が多く、一斉授業には向かない。将来的に同時貸出無制限の電子書籍が出てきたら、

授業と連携ができれば良いと思います。

(会 長) 学校図書館の情報化の推進の担当課が指導室となっているのは、予算の別ということですか。仮に、予算がついたとして、実際にこの蔵書の管理、運営等の場面において図書館が入るのか、外部委託という形の導入をイメージしているのか。

(委 員) 「(12)学校図書館の情報化の推進」は、担当課が指導室だけの理由は何か。蔵書管理のノウハウは、図書館の方が知っていると思う。

(事務局) 学校図書館の情報化の推進については、指導室が予算化をしますので、担当課としています。学校図書館の蔵書の管理、運営等の場面に、図書館は入らないと思います。

学校間での本の貸借はしないと思うので、学校毎の貸出状況や蔵書管理ができるシステムを導入、運用は誰がするのか、導入後のランニングコストも含めて考えると、費用対効果で、システム導入より本を買った方が良いという話になるかもしれません。まずはその辺を検討していこうというところだと思います。

(委 員) 推進計画の対象が「おおむね18歳まで」である理由は何か。高校生を含んでいるため、18歳までとしているのか。18歳は、現在は成人なので違和感があります。

(事務局) 対象を「おおむね18歳まで」としているのは、18歳で高校を卒業するまでとの考えからです。なお、国や都の計画も、同様に、おおむね18歳までを対象としています。

(会 長) 御意見が出つくしたと判断します。

それでは、誤字の修正のみということで、承認という形を取りたいと思います。

**(委員、了承)**

#### **4 その他**

(事務局) [次回の運営協議会について等]

(会 長) 以上で予定した案件は全て終了いたしました。

これをもちまして令和5年度2回青梅市図書館運営協議会を閉会とさせていただきます。本日は大変ありがとうございました。

以 上